

部会グループ会議における意見と県の対応

資料1-3

プロジェクト		1 未病	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	未病センターなどの増加や研修受講者の増加など、事業は順調に進んでいるように見えるが、一方で「日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている人の割合」が伸びていないなど、アウトカムの成果が見えてこない。このギャップが、施策自体の問題なのか、施策の展開プロセスに問題があるのか、分析する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	伊達委員	未病を改善することが従業員にもたらす効果（生産性向上や創造性向上など）を企業などにも発信し、未病をより周知する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	伊達委員	未病に関する取組みの費用対効果を明らかにするためにも、職員が取組みの成果を分析できる専門知識を身につける必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	伊達委員	未病の取組みに関するアウトカムは、成果が数値に現れるまで5～10年の長い時間がかかるため、評価を行う上でどのような指標が適切であるか、検討する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
5	牛山委員	未病という概念がまだ十分に県民に周知されていないため、この概念を普及させていくためにも、取組みの成果を明確にしていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>やや遅れています</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未病改善によって得られる効果を分かりやすく示し、県民へ一層の周知を図る必要があります。 ・未病改善に関するこれまでの取組みの成果を分析し、より効果的な取組みを検討する必要があります。
---------	---

プロジェクト		2 医療	
NO	委員名	意見	対応
1	伊達委員	数値目標①のマイ未病カルテについて、県として利用してもらいたいターゲット層を明確にした方が良い。例えば、県民914万人のうち、1.5万人の利用だと利用率は0.16%で概ね順調とは言い難い。しかし、昨年出産した女性向けに母子手帳を含めた当該カルテを普及し、1.5万人が利用したのであれば、大いに評価すべき。取組みを進めるにあたって、重点的なターゲットを定める必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	伊達委員	数値目標③について、10万人当たりのがんによる死亡者数を示しても、社会的なインパクトはない。むしろ、がんのステージ別毎の対応や早期発見するための取組みなどを重視する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
3	伊達委員	数値目標②「在宅療養支援診療所の数」などについては、県下の疾病モデルがどのように推移していくのかといった推計を踏まえて評価する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	伊達委員	最先端医療の推進について、重粒子線治療などの最先端技術がどの疾病モデルに対してどのように貢献するのか、社会に定着するのか、あるいは国内外への社会的なインパクトがどれくらい期待できるのか等、期待される成果や費用対効果を明確にする必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	関委員	数値実績（目標を上回っても下回っても）だけではなく、具体的な取り組み内容や取り組んだことによる効果を書いてもらえると評価しやすいので、検討する必要がある。	進行管理の課題として今後の参考とさせていただきます。
6	伊達委員	神奈川県民が東京都でがん治療を受けているケースも多い（その逆もある）。県下に重粒子線治療の設備があっても、受診者の流出を食い止めるものになっているのか、そもそも食い止める必要があるのかを含めた検証が必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
7	伊達委員	医療政策の推進にあたっては、ビッグデータの分析による県民の健康や疾病に関する現状の把握が必要であり、そうした分析・評価を行う職員のスキルの向上が必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

プロジェクト		2 医療	
NO	委員名	意見	対応
8	小池委員	政策目標④で未就業看護師の届け出た数の評価に加え、再就業し実際にどのくらい活動しているかが重要である。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイME-BYOカルテなど新たなヘルスケアシステムの構築を進めるにあたっては、重点的なターゲットを設定し、効果的に取組みを進めていく必要があります。 ・最先端医療の普及促進が県民の医療環境の向上や健康増進に寄与することを、県民に分かりやすく示す必要があります。
---------	---

プロジェクト		3 高齢者福祉	
NO	委員名	意見	対応
1	伊達委員	高齢者のライフスタイルや健康状態、それぞれの分布などを把握し、その上でそれぞれの取組みが誰にどのような効果を及ぼすのか、どれくらいの費用を投じる必要があるのか、を分析する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	伊達委員	例えばバリアフリーでは、昔は人が支えたり手を引いたりしていたが、今では設備を整備することで対応している。ソフトによるサポートとハードによるサポートのどちらが望ましいのか、改めて検討してみる必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	伊達委員	認知症について、相談する際のアクセスの向上（海外事例：認知症カフェ）などのソフト面の取組みのほうが、施設の充実といったハード整備よりも重要である。	二次評価（案）に反映しました。
4	伊達委員	高齢者が増加していく中、高齢者の社会参加は重要な課題である。生きがいづくりという観点だけでなく、介護等の福祉サービスが必要な人を減らしていくという観点も含め、俯瞰的に捉えていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	小池委員	認知症サポーターは地域の中で認知症の方を支えていく存在。特に、コミュニティの中で地縁を強化していくためには、コンビニや公共交通機関の従業員等は重要な役割を担うので、認知症に理解のある企業や店を認定するような仕組みについて検討が必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
6	小池委員	糖尿病など成人病の予防が認知症の予防にもつながるという認識を広めていくことも、認知症の総合的な支援として捉える必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
7	池本委員	（乳児のハチミツ摂取事故を受け、どこに記載すればよいか分からないが）子どもや高齢者の事故予防のための対策や意識啓発が必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

プロジェクト		3 高齢者福祉	
NO	委員名	意見	対応
二次評価（案）		<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルや健康状態など、現在の高齢者の状況を的確に把握し、効果的な取組みを検討していくことが必要です。 ・高齢者の健康・生きがいづくりにとどまらず、高齢者の社会参加の促進についてより一層の取組みが必要です。 ・県民が認知症に関する情報にアクセスしやすい環境の整備を促進していく必要があります。 	

プロジェクト		4 障がい者福祉	
NO	委員名	意見	対応
1	橋本委員	インフラの整備状況などは記載されているグラフや数値で分かるが、本当に必要な人に必要なサービスが届いているのかが記載されている内容では分かりづらい。数値で記載することが難しければコメントやアンケートなどで、どれぐらいの人が必要としていたり、不安に思っていたり、満足していたりということが記載されていれば評価がしやすいので、検討する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	橋本委員	福祉に携わる人材が十分確保されているのか、人材確保の状況と実際の取組みについての関係を県民にわかりやすく説明する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	池本委員	子どもの障がい者についても対応が必要である。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
4	伊達委員	障がい者の方々がどのような形で社会参加していくのか、そして社会が受け入れていくのか、制度や設備といったハード面だけでなくソフト面でも考えていく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
5	小池委員	障がい者を支えるハード面を整えれば整えるほど社会から分断されていくことを懸念している。コミュニティの中に障がい者が参加し共に生活していくことを促進するような活動とそれに対する評価を行っていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
6	伊達委員	子どものときに障害児と一緒に暮らした子どもたちはその生活を当たり前を感じるが、社会的に隔離していくと疎外する気持ちが生まれてしまう。社会の中にどう取り込んでいくのか、取り込むことによって社会的価値がどう評価されていくのかという視点で考える必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
7	伊達委員	サービスを提供する人、障がい者を支える人をサポートする仕組みについても、課題意識を持つ必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

プロジェクト		4 障がい者福祉	
NO	委員名	意見	対応
二次評価（案）		<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会において、障がい者に対する理解促進のための取組みを一層進めるとともに、障がいのある人もない人もともに参加し活動できる場を増やしていく必要があります。 ・福祉サービスの充実や人材確保の取組みについて、その成果を検証し、より効果的な取組みを検討していく必要があります。 ・福祉サービス従事者をサポートするためのしくみを充実していく必要があります。 	

プロジェクト		5 エネルギー	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員	県民ニーズ調査の動向にも現れているが、省エネ等に対する意識は普及段階であったり、逼迫した状況がないと意識が下がっていく傾向が一般にあるので、普及啓発を引き続き行っていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	村井委員	数値目標①（「県内の年間電力消費量の削減率」）について、削減率については人口減少や高齢化による自然減も踏まえて目標値を設定する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	川崎委員	数値目標①について、2015年度ですでに2016年度の目標が達成できているが、スタート時点の目標設定が低かったのではないかと。今後、適切な目標設定を行う必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーなどの普及促進や省エネに対する県民意識の向上につながる取組みをさらに進めていく必要があります。
---------	---

プロジェクト		6 産業創出	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員 村井委員	ロボット産業は国際的に競争が激しいため、日本の国際競争力が高まるよう大手企業と中小企業のビジネスマッチングを積極的に行い、ロボットの実用化・普及に取り組む必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	内田委員 川崎委員 木曾委員	技術がある優秀な中小企業に人材が集まらないという問題がある。分野別で労働力の需給がマッチングすることが重要であり、マッチングの機会を作っていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	川崎委員 内田委員	工場の立地件数と立地面積の推移を示したグラフでは、なぜ工場が移転して行ったのかという点が見えない。産業構造の変化の動向や、工場の移転の数字・売上高など多角的なデータが必要である。	進行管理の課題として今後の参考とさせていただきます。
4	木曾委員 内田委員	数値目標の達成状況②（県外・国外から立地した事業所数（累計）の分析欄について、「事業計画の認定を次年度以降としたものが一部あるため」と記載があるが、28年度の評価報告書の記載には相応しくない。他の記載に改める必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットの実用化・普及のため、大手企業と中小企業のビジネスマッチングに取り組んでいく必要があります。 ・中小企業が求める人材の確保支援に取り組んでいく必要があります。
---------	---

プロジェクト		7 海外展開	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員 木曾委員	日本語でしか対応できないという理由で海外展開に積極的でない中小企業も多い。積極的な海外ビジネスチャンスの獲得を促すような取組みが必要である。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	木曾委員	中小企業の海外展開支援は、進出を検討している企業の実際のニーズ、事業化可能性や事業継続性、相手国の需要、相手方政府の取組みなどをきちんと踏まえて、効果的な支援を展開する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	内田委員	インダストリアルパークはベトナム北部（ハノイ近郊）にあるが、商業活動の中心地は南部（ホーチミン近郊）である。今後ベトナムで支援を展開していく場合には、南部も視野に入れる必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	村井委員	数値目標①（外国企業の誘致件数）は海外から直接誘致した件数なのか。海外からの直接誘致にこだわらず、他県に立地している外国企業も含めて、幅広く誘致を行う必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
5	内田委員	海外展開支援について様々な取組みが行われていることは評価できるが、支援した後の成果を具体的に県民に示す必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業の海外展開支援の取組みについては、目に見える本県への具体的な成果が現れていないことから引き続きしっかりと取り組んでいく必要があります。 ・ 中小企業の海外展開支援について、進出を検討している企業のニーズや相手国の需要等を踏まえ、効果的な支援を行っていく必要があります。
---------	--

プロジェクト		8 観光	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員	昨年度の指摘事項（「訪日外国人観光客が増加していく中で、国別の来日状況やニーズなどを分析していく必要があります」）について、対応状況を示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	木曾委員	宿泊数が少ないのは東京が近いということもあると思うが、神奈川は豊かな自然が多いのだから、アクセスしやすい中心地ではなく、周遊型・体験型の里山ツアーなど自然と共生するツアーなどによりその地域に人々が訪れれば、宿泊込みの観光客の拡大につながっていくと考えられる。そういった視点で一層取組みを推進する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	川崎委員 内田委員	新たな観光の核づくりの施策と民泊への対応がリンクしていないと感じる。県として神奈川県版の民泊の認定方法や評価基準などを示すことで、民間事業者の参入が容易になることが考えられる。そういった取組みを検討していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川の豊かな自然環境を生かした周遊型・体験型ツアーの企画・商品化等により、地域を訪れる観光客の宿泊も見込める取組みを強化していく必要があります。 ・ 外国人観光客の受入対策として、民泊の活用について検討していく必要があります。
---------	--

プロジェクト		9 マグカル	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員	人口が多い横浜などの地域では進んでいるが、県西地域など人口の少ない地域においてはまだまだ進んでいない印象を受ける。市町村と連携し、取組みを進めていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	内田委員	マグカルが全県展開しているかを分かりやすく示していく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	内田委員	数値目標③で子ども・青少年の文化芸術の鑑賞・体験事業を行った開催地の記載があると理解しやすい。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
4	川崎委員	県でオリジナルなミュージカルを行うなど全国的に珍しく素晴らしい取り組みをされているが、KAATの劇場では劇団四季など広く知られている公演も行われている。県としてオリジナルに力点を置くのか、大手の商業作品に力点を置くのか、考え方を整理する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
5	川崎委員	県内の演劇人材を活用して作ったのがオリジナルのミュージカルであり、その振興とマグカルの興隆は直結している。マグカルの進捗状況の把握や今後の展開に生かすためにも、オリジナル作品にどの程度集客があるのかを把握する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
6	木曾委員	県民ニーズの動向②で、県民満足度が21.1%と低い。地域によって満足度に差があると思うので、実態を分析する必要がある。また、全県展開というからには、地域に差が出ないような展開を推進するべきである。	二次評価（案）に反映しました。 ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
7	川崎委員	神奈川県民は容易に東京へ出て行くことが可能である。県民ニーズの動向②での県民満足度については、県内における文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場として満足しているかを把握する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
8	村井委員	県主催の取組みとしては、プロモーターが扱うようなものよりも、マグカルの機運を高めるためにも、県民参加型のミュージカルや演劇を中心とする必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

プロジェクト		9 マグカル	
NO	委員名	意見	対応
9	川崎委員	<p>マグカルを推進することによる経済効果はどの程度あるのか。劇場の売上げもそうだが、様々な催しを連携して行うことにより、地区全体の経済を押し上げている場合もある。経済的な視点からもマグカルを進めていく必要がある。</p>	<p>ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。</p>

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マグカルの全県展開に向け、市町村と連携し、地域間で展開に大きな差が生まれないう、取組みをさらに推進する必要があります。
---------	--

プロジェクト		10農林水産	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員	その他社会環境を表す指標で、県産木材生産量が急増しているが、要因をより詳しく記載する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	内田委員	農業に参入を希望している個人だけでなく、企業に対しても支援が必要である。	二次評価（案）に反映しました。
3	川崎委員	経済のエンジンを回していくため、地産地消の取組みをより一層進めていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	内田委員	県民ニーズの動向「地元で取れた新鮮な野菜や魚が食べられること」に満足している人の割合を増やす取組みが必要である。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の推進のため、県産農林水産物に対する県民の認知度向上に向けた取組みをより一層進めていく必要があります。 ・農業等への企業参入の促進の取組みをより一層進めていく必要があります。
---------	--

プロジェクト		11減災	
NO	委員名	意見	対応
1	山本(佳)委員	災害時、避難所等で女性が担う役割は非常に大きい。消防団に限らず、様々なコミュニティ活動に女性が主体的に参加し、役割を果たせるような取組みを平時から行うことが必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
2	中西委員	p58「総合分析」4つ目の○、「～備蓄している人の割合は増えましたが～割合は減少傾向にあります」という文章はわかりにくいので、趣旨が伝わるよう修正する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
3	中西委員	数値目標の達成状況は良好だが、それだけで安全になるわけではなく、県民の危機意識を一層高めていく必要がある。災害に備えるには身近な地域住民同士のつながりが重要であり、そうしたつながりの強さを高めていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	北原委員	学校に通う子どもたちについては、学校と自治会等で情報共有がなされやすいが、保育園に通う子どもやデイサービスを利用する高齢者などについて、どのように安否確認を行っていくか、地域の課題として受け止める必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
5	北原委員	消防団は重要だが、そもそも誰が消防団員なのか、情報がどこに集まるのかが分らないと効果はないので、そういった点についての対応が必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
6	原嶋委員	かながわシェイクアウトの参加者が増加している中、災害時の協力体制をさらに整えていくために、参加者の属性（世代、世帯類型等）等についてより踏み込んだ把握が必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
7	原嶋委員	災害に備えた備蓄は必要だが、過剰な備蓄になっている例があるのではないかと。どこまで備蓄が必要なのか、一定の基準を示すことが必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
8	原委員	備蓄品の定番は水と乾パンだが、東日本大震災の折に、水が不足する中で乾パンはとても食べにくかったと指摘されている。水が十分でない中でも、子どもや高齢者が食べやすい非常食（例えばゼリー状食品等）も開発されている。こうした備蓄内容についての意識啓発も必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

プロジェクト		11減災	
NO	委員名	意見	対応
9	朱委員	日中に地震が起きた場合、乳幼児や高齢者等の社会的弱者ばかりが地域に残っている可能性もある。また、働いている人たちが通勤先で帰宅困難者になる可能性もある。そうした状況に対応するための取組みが必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
10	山本(佳)委員	報告書に、箱根山の噴火を想定した避難マニュアルのことが書かれているが、箱根に限らず、外国人を含む来県者のための災害時の対応について、取組みを進めていく必要がある。	二次評価(案)に反映しました。
11	山本(佳)委員	防災や災害時の対応に関して、県が行うべきことと市町村が行うべきことについて、役割分担を明確にする必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価(案)	<p>順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における災害対応力の強化のため、身近な住民同士のつながりを一層強めていく必要があります。 ・外国人観光客を含む来県者のため、災害時の避難誘導等について取り組む必要があります。
---------	--

プロジェクト		12治安	
NO	委員名	意見	対応
1	中西委員	「治安」プロジェクトについては、刑法犯認知件数を数値目標とする必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
2	原嶋委員	防犯ボランティアの属性（世代、性別など）や地域バランスについて、把握・分析して取組みに生かしていく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	中西委員	お互いの理解不足から来る漠然とした不安感を解消するため、マイノリティに対する理解を醸成していく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	原委員	インバウンドの外国人が地方都市に来た際、不案内によるトラブルが発生しているため、外国人向けの表示を充実させる必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
5	山本(佳)委員 中西委員	体感治安の改善については、県民ニーズ調査における「安全で安心してらせること」に対して「満たされていない」とする人の割合を注視していくことが必要である。また、その割合についても示す必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
6	朱委員	（踏切事故や交通事故等）様々な事故から高齢者を守る必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体感治安の改善に向けて、不安感の解消につながる様々な取組みを進めていく必要があります。
---------	---

プロジェクト		13男女共同参画	
NO	委員名	意見	対応
1	池本委員	数値目標①②の実績が伸びていかないのは、教育分野における男女平等が進んでいないことも影響しているのではないかと考えられるため、しっかりと分析を行う必要がある。	二次評価（案）に反映しました。 ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	橋本委員	神奈川県は中学における給食の普及が低く、働いている母親・父親の負担となっている。子どもの健全な成長と働く親の負担軽減のためにも、安全・安心で健康的な給食の整備を進める必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	牛山委員	女性の活躍には学校教育を含め、教育という側面が大切であり、一層取り組んでいく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	伊達委員	男性、女性を問わず、働きながら育児をしている人々を支える仕組みが十分に整っていない。働き方改革をさらに推進するほか、働きながら育児を行える環境の整備により一層取り組んでいく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	伊達委員	家庭内暴力は女性によるものも最近は多くなってきている。被害者は女性ばかりではなく男性の場合もあり、被害の傾向も異なっているということを念頭に、支援や普及啓発を行っていく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
6	伊達委員	家庭内暴力は幼少期の経験や現在おかれている環境が一因であると考えられており、そういった面もしっかりと分析を行うことで効果的な対策を検討していく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
7	伊達委員	男女の雇用機会均等を促進していくためには、女性への支援に限定することなく男女両方の立場から大局的に検討していく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性の活躍を促進するためには、教育という側面からの取り組みをさらに進める必要があります。 男女を問わず、働きながら育児などを行っている人々を支援する環境づくりに、一層取り組んでいく必要があります。 男女が共に生き生きと働ける環境づくりに向けて、実効性のある働き方改革に、一層取り組んでいく必要があります。
---------	---

プロジェクト		14子ども・青少年	
NO	委員名	意見	対応
1	伊達委員	福島の被災児童のいじめ問題における教育委員会をはじめとする公的機関の対応をみると、子ども・青少年が健やかに成長する土台をつくるために、公的機関が当事者意識をもって真剣に取り組んでいるのかと疑問を感じざるを得ない。子ども・青少年の問題を自分たちの責務として誠実に対応し、最終的な解決に導こうとする意識、仕組みを公的機関にしっかり整える必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
2	伊達委員	神奈川の合計特殊出生率の全国との比較が、神奈川が子育てしやすい地域なのかどうかを分かりやすく表す指標となる。子ども・青少年施策を推進するにあたっては、この値をもっと重要視する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	伊達委員	子どもの貧困対策として、NPO法人等が「みんなの食堂」など様々な取り組みを実施している。そのような取り組みを奨励していくことも必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	伊達委員	人口減少社会の到来は確実で、その中で神奈川県はどのような未来を目指していくのか。その考えをベースに、5年後、10年後、20年後、それから先も含めて神奈川を支える子供たちをどう育てていくのか、そのために今何をすべきかを明確にし、実行していく必要がある。そのためには、教育のあり方などを含め視野を大きく広げて検討していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	牛山委員	子どもの貧困を含め、長期的な視点にたって子ども・青少年施策を検討する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
6	伊達委員	組織としてもそれ以外でも横の連携がとれておらず、さらに法規制もあってか「自分たちが出来る範囲のことはやっています」ということで、問題が真に解決しないことがあまりにも多い。行政はそれらを乗り越える仕組みづくりを検討し、実行していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
7	伊達委員	学校、児童相談所など関係機関で情報が共有されないことにより、それぞれで同じ説明が必要となる。子どもを育てる親の立場で考えて取り組みを進める必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

プロジェクト		14子ども・青少年	
NO	委員名	意見	対応
8	小池委員	乳幼児期の栄養状態がその後の発達に影響を及ぼす場合もある。経済的に困窮している環境に生まれたということが子どもの将来を決めてしまうことがないように、行政は子どもの貧困に対する取組みを更に進めていく必要がある。学童期以前からの総合的な貧困対策を実施していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
9	池本委員	経済的困窮状態にある高校生などへの十分な支援が必要である。	二次評価（案）に反映しました。 ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
10	池本委員	（乳児のハチミツ摂取事故を受け）子どもや高齢者の事故予防のための対策や意識啓発が必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・青少年施策について、幅広く課題を検討し、長期的な視点に立って取り組む必要があります。 ・子ども・青少年に関わる機関同士の情報共有など、横の連携をより強化する必要があります。 ・総合的な子どもの貧困対策に、一層取り組む必要があります。
---------	--

プロジェクト		15教育	
NO	委員名	意見	対応
1	伊達委員	「一人ひとりの生きる力」に関して、社会との接点が少ない子どもたちが増えているなかで、子どもたちに社会との接点をどう持たせるのか。こうした本質としての教育を県として発信・表現していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	橋本委員	英語・プログラミングなどの必修化が進められるなど、増加している教員の負担を軽減する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	原委員	国際交流の推進という点において、外国人留学生への支援も重要だが、神奈川県が生徒が海外を経験するという点も非常に大切である。国際社会を経験したグローバルな人材の育成にもより力を入れていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。 ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます【仮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一人ひとりの生きる力」を育むため、子どもたちが社会とかかわっていく力を身につけるための取組みをさらに進める必要があります。 ・英語の教科化や言語活動・理数教育の充実など、今後増加する教員の負担を軽減する必要があります。 ・国際交流の推進のため、国際社会を経験したグローバルな人材の育成に、より一層取り組む必要があります。
---------	--

プロジェクト		16スポーツ	
NO	委員名	意見	対応
1	伊達委員	スポーツを行う環境について、設備などが増えている一方で、スポーツを行う環境などを地域でも支えていく取り組みが必要である。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	小池委員	スポーツと聞くと競技というイメージがあるが、一般の人にとっては「運動」だと思う。運動を通して健康になると考えた場合、生活の中にちょっとした負荷が掛かるような仕組みがまちの中にあるような、まち全体で健康増進に繋がる環境づくりを検討していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	池本委員	神奈川県は自然がたくさんあり、山登りやハイキングを通じて体を動かすことができるので、そういったこともアピールしていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの中で運動やスポーツに気軽に取り組める環境づくりを進める必要があります。 ・豊かな自然環境を生かした運動やスポーツの推進にも取り組む必要があります。
---------	---

プロジェクト		17雇用	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	高齢化が進む本県においては労働力の確保を図るため、外国人人材の養成・確保に力を入れて取り組む必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	小池委員	外国人看護師、介護福祉士の国家試験合格に向けた支援が効果をあげていることをもっと前面に出して評価をする必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
3	伊達委員	外国人看護師、介護福祉士については、長期的な雇用の確保を目指しているのか、何か資格を与えたいのかを明確にした方がよい。長期的な雇用の確保のためであれば、国家試験に受かるよりも前に、実情に応じた独自の認定を与えるなど、日本人に対する国家試験の取組みとは違った雇用の確保策、助成制度の創設について検討する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	伊達委員	もっと特区を有効に活用して、法規制に対してもフレキシブルに対応し、県に外国人人材を集積する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人人材の活用について、特区を有効に活用することなどにより、人材の養成と確保に積極的に取り組む必要があります。
---------	---

プロジェクト		18地域活性化	
NO	委員名	意見	対応
1	山本(佳)委員	「未病いやしの里の駅」のコンセプトはよいと思うが、設置による地域のメリットや効果を示す必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	原委員	県西地域の「未病」の取組みについては、観光の側面が前面に出ているが、もう少し未病につながる食材の地産地消など、未病の改善につながる地域性も出していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	中西委員	地域活性化を図るためには、観光振興により人を呼び込むだけでなく、その地域で生活していくことの魅力を高め、発信していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	山本(佳)委員	テレワークの普及など働き方が多様化する中、環境を重視した生活を求め移住を考える人に対し、自宅や地域で働ける環境の整備など、移住を促進するような仕組みの構築について、今後、検討する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未病による地域活性化の取組みについては、観光資源の創出だけでなく、未病の改善が実感できる地域の魅力の発信についてさらに取り組む必要があります。 ・地域活性化のためには、観光振興だけでなく、地域での生活の魅力を高めていく必要があります。
---------	---

プロジェクト		19多文化共生	
NO	委員名	意見	対応
1	朱委員	多文化共生のために、迅速、的確な情報発信や留学生の環境整備等にこれからも一層取り組んでいく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
2	朱委員	留学生が卒業、修了後に母国に戻ったり、第3国へ行ってしまうと、神奈川県にとってはマイナスになる。留学生が神奈川県に残りたいと思えるような魅力的な活躍の場や留学生の力を最大限に生かせるような環境を構築する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	山本(佳)委員	大学の就職課のような所に就職情報をはじめとした様々な情報が入り、そこから留学生に提供されていくような仕組みが整うことが大切である。大学に在籍する留学生に神奈川県で就職してもらうためには、大学との連携をもっと強化する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	原嶋委員	生産年齢人口が減る中で、外国人労働者が今後急激に増えることは確実である。急増した外国人労働者が定着していくことになった場合、生活面での様々な問題が発生する。また、文化的、言語的な違いにより外国人労働者と日本人との間に生じる様々な軋轢が益々大きくなると考えられる。そこをどう緩和し、乗り越えていくかが今後の大きな課題となるはずであり、県としても検討していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	山本(佳)委員	県民ニーズの動向②の「今後10年くらいの間外国人にとっても暮らしやすい地域社会になっている」と思う人の割合が3割というのは低いと感じるが、多文化共生のプロジェクトは、人や地域社会に密接にかかわっているものであり、数字だけで達成度を計れるものではないという側面もある。長期的な視点で、日本人も一緒に考えていく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生が神奈川に残りたいと思えるような魅力的な活躍の場や、留学生の力を最大限に生かせるような環境づくりに一層取り組む必要があります。 ・外国人労働者の一層の増加が予測される中で、これまで以上に、多文化理解の促進や多文化共生の地域社会づくりに取り組む必要があります。
---------	---

プロジェクト		20協働連携	
NO	委員名	意見	対応
1	北原委員	神奈川県でのNPO支援は手厚いと感じている。今後も効果的な支援策を実施し、NPO法人が活躍しやすい環境を整備していく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
2	北原委員	認定NPO法人になるための事務量やコストを考えたときに、認定申請を躊躇する場合もある。また、寄附も認定団体への寄附だけでなく、インターネットサイトでの1クリック寄附など様々な方法が広まっていることを考えると、評価にあたっては、認定NPO法人数だけではなく、社会貢献活動を行っている団体に対する寄附額なども考慮することを今後は検討する必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	原嶋委員	NPO法に基づく法人であることのメリットがあまりなくなってきたと感じている。実際、一般社団法人などの形態のほうがメリットがあるということで、NPO法人以外の形態で活動している団体も多い。今後はそのような団体への県の支援のあり方を検討していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	中西委員	プロジェクトのねらいに、「NPO・企業・大学・行政など～」との記載があるが、本来的にはNPOよりも先に、市民などといった言葉が入るべきである。地域で実際に活動している方々は、法人など確固とした団体を組織していない場合も多い。そのような方々との協働連携も重要であり、今後はそれらの活動に対する支援についても検討していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	原嶋委員	時間的、経済的に余裕のある団塊の世代を含むシニア層が、地域活動などに積極的に携わることが可能な、参加しやすい仕組みづくりが必要である。	二次評価（案）に反映しました。
6	山本(佳)委員	これまで培った経験を社会で生かしたいという気持ちを持っていて高齢者も多い。地域活動などに参加する足がかりとなるような情報を分かりやすく提供していく仕組みを検討する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

プロジェクト		20協働連携	
NO	委員名	意見	対応
二次評価（案）		<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の解決に向けて活動しているNPOをはじめとした多様な主体とのさらなる連携や、それらへの効果的な支援方法について検討していく必要があります。 ・多様な主体による協働連携型社会の実現に向けて、アクティブなシニア層や地域貢献を望んでいる人が参加しやすい環境づくりに取り組む必要があります。 	

プロジェクト		21自然	
NO	委員名	意見	対応
1	原嶋委員	数値目標の達成状況③小網代の森の年間利用者数の2016年度の実績値が目標値に比べて相当程度低くなることが予想される。その場合、要因についてしっかり分析する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	原嶋委員	動物の保護（ペット）と捕獲（野生鳥獣）について、考え方を県民にわかりやすく示していく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	原嶋委員 原委員	里地里山の保全の意義を明確にするためにも、地域経済を活性化する観点（木材利用、エネルギー源、観光など）から活用について明示的に記載する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
4	中西委員	都市の中の緑（都市公園、生産緑地など）について幅広く捉えて、次回の計画では整理してプロジェクトに位置づける必要がある。	次期計画に向けて参考とさせていただきます。
5	山本(佳)委員	このプロジェクトは対象が広く、進行管理や評価が難しい面がある。次の計画では整理してプロジェクトに分ける必要がある。	次期計画に向けて参考とさせていただきます。
6	中西委員ほか	数値目標の達成状況③小網代の森の年間利用者数の実績値が目標値に比べて相当程度低くなることが予想され、達成している②里地里山の保全活動に取り組んだ人数についても前年度から数値が落ちている。また、総合分析からも実質的に何が達成されたのかが読み取れず、プロジェクトの進捗状況としては「やや遅れている」とするのが適当である。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>やや遅れています</p> <ul style="list-style-type: none"> 数値目標の達成状況に鑑み、これまでの取組みの効果を検証した上で、プロジェクトのねらいの実現に向けてしっかりと取り組んでいく必要があります。
---------	---

プロジェクト		22環境	
NO	委員名	意見	対応
1	原嶋委員	数値目標の達成状況①大規模排出事業者のうち二酸化炭素排出量の削減目標を達成した事業者の割合について、産業部門の二酸化炭素排出量が大きく減っているにもかかわらず事業者の個々の目標値は達成できていないことについてより詳しい分析が必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
2	原嶋委員	産業部門の二酸化炭素排出量が大きく減っていることは悪いことではないが、工業立地が減るということも起きており、地域経済活性化との関係で総合的に受け止める必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	原嶋委員	地球温暖化対策や3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進などは、家庭部門に対する意識啓発が特に必要である。	二次評価（案）に反映しました。
4	山本(佳)委員	家庭部門への意識啓発は継続的に取り組むことが必要で、その際に個人の関心事項とつながるようなアプローチ（例、車に関心ある人にエコカー）が有効であり、検討が必要である。	二次評価（案）に反映しました。
5	中西委員	将来的な課題として、生物多様性といった大きなテーマをプロジェクトとして取り上げる必要がある。	次期計画に向けて参考とさせていただきます。
6	山本(佳)委員	神奈川県は環境に配慮した自動車に関していろいろな取組みしているので、PRしていく必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策や資源循環への取組みについて、家庭部門への継続的な意識啓発を進めていく必要があります。
---------	--

プロジェクト		23都市基盤	
NO	委員名	意見	対応
1	山本(佳)委員 中西委員	都市基盤分野は広い要素を含んでいるが、数値目標としては、交通分野のみが設定されている。空間としての魅力づくりについても取り組んでいるため、交通分野以外も含めた指標の検討が必要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
2	中西委員	数値目標の「インターチェンジまでの距離5km以内の地域の割合」はインターチェンジの新規整備に依存するもの。総合的な交通利便性の観点から、インターチェンジまでの到達時間なども評価の要素とする必要がある。	事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	山本(佳)委員 中西委員	県民ニーズ動向の「自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われていること」の満足度が低いので、対応をしていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観や歴史文化などの地域の特色を生かしたまちづくりを引き続き推進し、神奈川県らしい県土づくりに取り組む必要があります。
---------	---

プロジェクト		(神奈川の戦略)「グローバル戦略」の推進	
NO	委員名	意見	対応
1	中西委員	学生の人材交流が進められている大学などの教育機関との連携という側面も重要である。	事業実施の中で参考とさせていただきます。

プロジェクト		(神奈川の戦略) 地方創生の推進	
NO	委員名	意見	対応
1	原嶋委員	地産地消、観光資源、箱根の温泉など、自然利用による地方再生という視点もクローズアップする必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。

プロジェクト		全体	
NO	委員名	意見	対応
1	伊達委員	職員が取組みの成果を分析できる専門知識を身につける必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	山本(佳)委員	神奈川県は日本の縮図。都市部、郊外、自然があり、様々な取り組みが必要である。	二次評価（案）に反映しました。
3	山本(佳)委員	神奈川県は大きな政令市を3つ抱えており、これらの市と連携して取り組んでいくことが必要である。	二次評価（案）に反映しました。
4	山本(佳)委員	プロジェクトにおける県と市町村の役割を明確にする必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	「総合計画審議会の評価」に記載
---------	-----------------